▶帝京大戦ラインアウトでのボール獲得を狙う紫紺の選手たち（撮影者・田中佑介）

明スポ 飯沼 大石 M.U.F.C.

12月5日 秩父宮ラグビー場 明早戦

明大スポーツ
12月3日 金曜日
令和3年（2021年）
第515号
明大スポーツ新聞社
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1-1
TEL(03)3233-3770
http://meisuiren.net/
香うどん丸香
ラグビー明早戦特別号

強靭なメンタル武器に大一番へ

山梨県出身。ラグビー選手だった祖父の影響もあって3歳からラグビーを始める。幼少期から父がいたこともあり水泳などさまざまなスポーツに取り組み、中学時代はハンドボール部に所属。明大合で優勝し、全国大会に出場した経験もある。そのため高校進学の際（ラグビーをやろうかな？）と迷ったが、しかし憧れの父の背中を追い、父と同じ日川高への進学を決意。高校では同級生のほとんどが部活動をしていたこともあり、スタンドオフでプレーする父が「父親がスクラムハーフ（以下、ハーフ）で憧れだった」ことから、また高校日本代表でもハーフでプレーしていたこともあり、明大ではハーフで勝負することを決意した。大学では紫紺リバイバルを目指してスタンドオフで培った視野を武器に、1年次から紫紺を着ると2年次にはスタメンに定着。以後ハーフとして確固たる地位を築き、対抗戦通算最終学年は主将として強いリーダーシップを発揮し、チームを引っ張る。熱い言葉でチームを鼓舞する姿が印象的だ。将来の日本代表入りも期待されている。170㌢・75㌔。

◆関東大学対抗戦Aグループ　順位表◆

	大学名	帝京大	明大	早大	慶大	日体大	筑波大	青学大	立大	勝	敗	勝ち点
1	帝京大		14○7	29○22	52○14	91○28	17○7	52○0	103○0	6	0	27
2	明大	7●14		12・5	46○17	46○10	53○14	52○3	68○7	5	1	26
3	早大	22●29	12・5		40○33	96○0	21○14	61○13	70○0	5	1	24
4	慶大	12・4	17●46	33●40		43○5	17●34	40○14	41○5	3	3	16
5	日体大	18●91	10●46	0●96	5●43		35○17	32○17	65○0	3	4	15
6	筑波大	7●17	14●53	14●21	34○12	17●35		24○21	27○20	3	4	14
7	青学大	0●52	3●52	13●61	14●40	17●32	21●24		34○25	1	6	5
8	立大	0●103	7●68	0●70	5●41	10●65	20●27	25●34		0	7	1

※2月3日時点での試合結果

伝統校の誇り

関東大学対抗戦Aグループ（以下、対抗戦）の最終戦を迎える。伝統校の一戦、帝京大戦である。スタンフォード大戦以来、2年ぶりの有観客試合となる。ファンの皆さまの応援が力となることは、本校が一番よく知っている。「ONE TEAM」の合言葉の下、対抗戦の連勝は、帝京大戦を除いて、2018年の慶大戦まで遡る。「帝京大戦に勝つ」ことが、明大ラグビーの復活を意味する。

「チームにまとまりがないなかで、チームとしてのアイデンティティーを見つけることが、大学選手権に向けての最大のポイントだと思っています。」と、本校ラグビーの指揮を執る田中澄憲監督は、明大ラグビーの復活を期待されている。「強靭なメンタルを武器に、帝京大戦に勝ち、大学選手権に向けて、勢いをつけたい。」と、本校ラグビーの復活を期待する。

継承する文化

飯沼主将は、「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。

「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。

「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。

「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。

「帝京大戦に勝つことが、大学選手権に向けての大きな一歩になる。」と、帝京大戦に向けての意気込みを語った。「本校は、『ONE TEAM』を合言葉に、一丸となって戦っていきたい。」と、チームとしての一体感を強調した。

新たなエイト像を体現　勝ち取った紫紺の座

明大の選手権優勝を目指すW大の要石となるのがナンバーエイト大石廉太副将（第4回関学院大戦以降）。ベガサス（A部チーム）のメンバーでもある大石は、ベガサスでは、ラグビーの基礎を学ぶ中で、「ボールを持ったら、ボールを持ったら、ボールを持ったら、